

## 鷹巣誠一作 「先生 3」

効果音 (終業のチャイム)

生徒 起立。礼！

効果音 (ガヤ)

山下先生 あなたたち！ いつまでも何をやってるの！ もう授業は始まっているのよ。

井上勇二 うるせえなあ。

北川弘美 そうよそうよ。

山下先生 井上君、北川さん。またあなたたちね！ その2、3人、出てらっしゃい。

井上、北川 ……

山下先生 聞こえないの？ あなたたちよ。

効果音 (ガタンとイスをどける音)

山下先生 あなたたち、どこへ行くの?! ちょっと、戻りなさい。

生徒たち (ヤジる声)

山下先生 うるさいわよ。授業を始めます。教科書の24ページ、レッスンイレヴン。さあ、みんなで読んでいって…。(FO)

ナレーション ここは青春中学校の2年B組。お聴きのとおりの問題クラスなのですが、特に英語の山下先生の時は、また特別なのでした。山下先生は独身主義を通してきた先生で、性格がきつくと、生徒には人気がないのでした。そして2年B組の中でも、特に井上勇二と北川弘美の二人がこの先生を嫌っていて、先生にいつも目をつけられているのでした。

勇二 あーあ、面白くねえなあ。あの山下のやつ、またおれたちを名指しで呼びやがったぜ。

弘美 そうそう。まったくあのオールドミスと来たら、あたしたちばかり目をつけてさ。

勇二 全くあれでよく教師が務まるよなあ。

弘美 そうよ。あたしたちのことなんて、これっぽちも考えてないんだから。

勇二 全くだよなあ。こんな天気がいいのに、なんだってあんなやつ顔なんか見てなきゃならねえんだよ。出てきてせいせいしたぜ。

弘美 でもさあ、いつもやられっぱなしで悔しいと思わない？

勇二 そうだなあ。何か一発やってやりたいよなあ。

弘美 そうね。どうせあたしたち落ちこぼれだものね。それに義務教育だから退学もさせられないしね。

勇二 よし、クラスの仲間のやつも何人か入れて計画しようぜ。

田中先生 こら、お前らそんなとこで何してるんだ。授業中だろ、早く教室に入りなさい。

弘美 は〜い。

勇二 ちえ、今に見てろよ。

ナレーション そしてその計画は着々と進められていきました。弘美は、この計画をクラス全体のものにするために、この計画に一番乗りそうもない敬子に声をかけました。恵子は毎週教会に通っているクラスで唯一のクリスチャンでした。

鈴木敬子 あら宏美、どうしたの？

弘美 あのさあ、今度みんなでさあ、山下のやつに何か仕返しをしてやろうと思ってるんだけどさあ、

あんたも話に乗らない？

敬子

えー、わたし？

弘美

何よ。イヤなの？

敬子

でもさあ、先生に怒られるし…。

弘美

何言ってるのよ。クラスみんなは乗り気になってるのよ。あんただけ今更シラけないでよ。

敬子

でも、わたしあの先生のこと、あまり悪く思っていないし、一応クリスチャンだから…。

弘美

何よ、クリスチャンだかなんだか知らないけどさあ、クラスみんなが全員一致でやろうとしてんのよ。あんただけいい子ぶろうたってそうはいかないわ。もし参加しなかったらあんたにも見返りが来るわよ。

敬子

そんなあ。待ってよ。もう少し考えさせて。お願い、ね、弘美！

弘美

計画実行は来週よ。必ず参加してもらいますからね。いいわね？

敬子

う……ん。(モノローグ) どうしよう。わたしにはそんなことできないわ。でも、わたし一人だけが参加しなかったら、みんなに裏切り者にされてしまうし…。学校を休もうかしら。でも、そんなこと通じるわけないわよね。そりゃわたしだって、山下先生のこととはそんなに好きじゃないけど、みんなと一緒に嫌がらせをするなんて、よくないことだわ。でも今更みんながやめるはずがない。どうしたらいいの?!

ナレーション

そんな敬子の悩みをよそに、とうとう計画実行の日が来てしまいました。敬子は学校を休むわけにもいかず、重い心のまま、家を出たのでした。

敬子

行ってきまーす。(モノローグ) どうとう今日だわ。神様、どうしたらいいんですか？ わたしにはそんなことできないんです。でも山下先生もいけないんですよ。みんなに反感を買うことばかりして。でもわたしはどうしたらいいんですか？ なぜ神様はこんなことを許されるのですか？

効果音

(教室のガヤ)

勇二

いいか。今日は第1日目だからな。どんなことがあっても、どんなことを言われても絶対に口をきくなよ。

生徒たち

「オーケー」「任しといて」「もちろんよ」

弘美

敬子、あなたもよ。分かってるわね？ もし裏切ったりしたら赦さないわよ。

敬子

う…うん。

効果音

(始業のベル)

生徒

来たわよ！

勇二

いいか、手はずどおりだぞ。

生徒

起立。礼！

山下先生

あら、今日は皆静かね。いつもこうだといいんですけどね。雨でも降らなきゃいいけどねえ。それでは出席を取りますよ。安藤さん。安藤さん、いないんですか？ じゃ次、井上君。井上君、休みですか…。(見つけて)なんだ、いるじゃないの。ちゃんと返事をしなさい。静かなのはいいけど、ちゃんと返事ぐらいいしなさいよ。まったく人をバカにして。次、上野さん。上野さん…。(怒って)どうしたんですか、今日はみんなで。分かったわ、みんなが返事をしたくないのなら、今日は授業はできないわね。わたしも時間ももったいないからやめるわ。あとで田中先生に報告しておきますからね。

効果音

(ドアの開閉音)

生徒 (口々に)「やったー!」「ザマ見ろ」「バンザーイ」

弘美 でもさあ、「田中先生に言う」って言ってたわよ。あの先生、怖いね。

勇二 何を今さらビビってるんだよ。まだまだこれからなんだから。いいか、みんな。だれから何を言われても構うなよ。もし裏切るやつがいたら、おれが相手だからな。いいな?!

効果音 (ドアの開く音)

田中先生 こら、お前ら、席に着け。なんであんなことをした? 学校に何をしに来てるんだ? 少しは反省しろ。いいか、今度あんなことをしたら、全員の親に来てもらうからな。いいな。覚悟をしとけよ。

ナレーション ところが次の英語の時間も、彼らの仕返しは続いたのです。

山下先生 今日は出席を取りませんからね。勉強をしたい人たちだけを相手に授業をしますからね。それでは鈴木さん。鈴木敬子さん。35ページを読んで。

敬子 は、はい。

山下先生 どうしたの、まさかあなたまで先生を困らせないでしょうね?

勇二 (皆に呼び掛けるように)面白くねえなあ、みんな。おれたちには用はねえんだとよ。こんな教室、出ていこうぜ。

生徒 (口々に)「そうよそうよ」「そうだよなあ」「出ていこうぜ」

効果音 (イスのガタガタいう音)

山下先生 ちょっと待ちなさい。席に着きなさい。ちょっと、井上君。待ちなさい。こらあ、待ちなさい!

効果音 (ガタンとイスにつまずく音)

山下先生 キャー!

効果音 (救急車のサイレン)

田中先生 バカ野郎! お前たち、何をやったか分かってるのか?

勇二 関係ねえよ。

田中先生 井上、それが先生に対する口のきき方か? 山下先生はもう少しで死ぬところだったんだぞ。

生徒 (口々に)「えー!」「まさかあ」「ウソだ」

田中先生 お前ら、いい加減に目を覚ませ。いいか、よく聞けよ。山下先生は倒れた時に眼鏡が割れて、それが右目に刺さったんだ。もう少しで視神経が切れるところだったんだぞ。幸い今のところ、完全な失明は免れそうだが、無理をして神経が切れたら、その時は万事休すだ。お前らは一人の女性の一生を台無しにしてしまうかもしれないんだぞ。そのことをよく考えてみろ。

敬子 (モノローグ)(エコー)わたしはなんということをしてしまったの? みんなをなぜ止められなかったの? 止めようとしなかったの? そうよ、自分がかわいかったのよ。勇気がなかったのよ。神様、ごめんなさい。

ナレーション 敬子は、自分のしたことの重大さに、どうしてよいか分からなくなっていました。そしてその夜、独りで山下先生の入院している病院を訪れたのです。

効果音 (ドアをノックする音)

山下先生 どなた?

敬子 鈴木です。鈴木敬子です。

山下先生 ああ、鈴木さん。どうぞお入りなさい。

敬子                   はい。

効果音               (ドアの開閉)

山下先生            面会謝絶なのによくここまで来れたわね。あなたが来てくれてうれしいわ。

敬子                 先生、わたし、そんないい子じゃないんです。心のどこかで先生のこと嫌ってたんです。でも、「クリスチャンだから、これじゃいけない」って言い聞かせてたんですけど。みんなが「先生に仕返すする」って言った時に、反対できなかつたんです。ごめんなさい。わたし、神様も先生も裏切っちゃったんです。本当にごめんなさい。

山下先生            鈴木さん。本当にありがとう。正直に言ってくれてうれしいわ。あなたたちが悪いんじゃないのよ。わたしがいけなかったの。こんなことになって、つくづく自分のしたことを考えさせられたのよ。自分勝手に、本気で生徒たちの心の中を考えてあげることができなかつたの。どうして彼らがあんな態度を取るのかっていう心を見てあげることができなかつたのね。

敬子                 でも、わたし…。

山下先生            いいのよ。先生ね、あなたが素直ないい子だってこと知ってたわ。でもそれがどこから来るのか、分からなかつた。わたしもあなたのように素直になりたいわ。あなたを見てるとね、わたしにもこんな心がどこかにあったはずだと思うの。でもね、自分の力ではダメなのよ。プライドが高くて。でもね、あなたがクリスチャンだと聞いたらね、わたしも神様のことが知りたくなつたわ。目が治ったら、一度教会に連れていってくれるかしら。

敬子                 先生…。

<完>